

## 全国学校飼育動物研究会 2012 年夏ワークショップ 開催報告書

全国学校飼育動物研究会 会長 宮下 英雄

日 時：平成 24 年 8 月 26 日（日）午後 1 時～5 時

会 場：東京大学弥生講堂一条ホール

テーマ：「学校動物ふれあい教室」

内 容：①講演「学校での動物飼育実践について～動物飼育の基礎と子どもへの影響～」

桑原保光 群馬県獣医師会学校動物愛護指導委員会 当会副会長

桑原動物病院 院長

②実習「獣医師の支援で動物ふれあい授業」指導／群馬県獣医師会委員

③講演「教育課程に位置づけた動物の継続飼育」

宮下英雄 前聖徳大学大学院教職研究科教授 当会会長

参加人数：定員 100 名

主 催：全国学校飼育動物研究会

後 援：文京区教育委員会 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

全国特別活動研究会 全国小学校理科教育研究協議会 社団法人群馬県獣医師会

公益社団法人東京都獣医師会

### 概 要：

本会宮下英雄会長の趣旨説明の後、桑原保光副会長による動物ふれあい教室の事前講義があった。桑原氏は群馬大学の教職課程生活科講座で、この分野の授業を 10 年以上受け持っておられるが、飼育の児童への影響、必要性について、「まず目的をもって行うこと」「子どもに動物への愛着を培うこと」「そのための飼育のあり方」を話された。その後、実際に群馬県獣医師会で授業に使っているウサギとのふれあいになった。参加者は 10 人程ずつの班に分かれ、それぞれに群馬県獣医師会の学校動物愛護指導委員会の獣医師から指導をうけて、一人ずつ実際にウサギを抱いてその感触を楽しみ、具体的な扱い方、ふれあい方を学んでおられた。また各班、獣医師との濃密な質疑や交流がおこなわれた。

また、東京都獣医師会の支援で、東京都内の小学校から群馬県の中学校にもらわれるメスのチャボ 1 羽が参加した。担当者は、チャボを迎えの群馬県の中学校の先生や参加者に優しく抱いてもらい、嫁入り先の中学生達に可愛がってもらえるよう、チャボに「人は怖くない」と印象づけ、人慣れさせるために心を砕いていた。

最後に、宮下会長が、教育課程に位置づけた継続飼育の教育的成果の研究事例を紹介なさり、飼育活動にかかわる法律的なことを含めた環境についてお話しされた。特に児童の発達の時期に合わせて、心を形成する脳への刺激として体験活動は有効であり、かつ欠くべからざることと話された。

これら桑原、宮下両氏の講演内容並びにパネル発表内容については、本会会誌「動物飼育と教育」第 16 号に収録予定である。

参加者は 100 名弱でちょうど定員であった。指導の獣医師は 11 名。ほかには教育関係者や学生が多かったが、小学 5 年生と中学 1 年生の兄弟も保護者とともに参加していた。

東京ならびに関東近県からの参加者が多かったが、北海道の幼稚園や小学校の先生をはじめ、青森、岩手、愛知県、福井、岡山、兵庫、徳島、福岡県などの遠方からも参集した。



宮下英雄先生



桑原保光先生

感想：

終了後のアンケートには、「とても勉強になった」との感想が、教員、獣医師ともに多かった。また、ビデオ2編（子ども達制作・出演の「飼育のやり方」、チャボ死亡時の獣医師参加のお別れの会「クロッピーの贈り物・編集版」）は、とても良かったとの声があった。

